

1. 日 時 1998年7月14日（火）10:30～11:50

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 谷垣委員長、藤家委員長代理、遠藤委員、木元委員
日本原子力研究所
吉川理事長、松浦副理事長、村上副理事長、岸本理事、
浅井理事

（事務局等）青江原子力局長、今村官房審議官、
坂田政策課長、伊藤原子力調査室長
吉鋪専門委員

中村核融合開発室長

研究技術課 斉藤

日本原子力研究所

田中企画室長、今井総務部長、田中人事部長、

菊池財務部長、野田企画室次長、田島総務課長、

山根予算課長、佐川

原子力調査室 板倉、村上、池亀、鈴木

4. 議 題

- （1）平成11年度原子力関係予算ヒアリングについて（日本原子力研究所）
- （2）新しい原子力政策円卓会議の進め方について
- （3）核融合に関する国際協力について
- （4）その他

5. 配布資料

資料1 平成11年度予算概算要求

資料2 第38回原子力委員会定例会議議事録（案）

配布資料 新たな原子力政策円卓会議の進め方について（案）

配布資料 I T E R工学設計活動（E D A）協定の延長について

6. 議事概要

- （1）平成11年度原子力関係予算ヒアリングについて（日本原子力研究所）
標記の件について、日本原子力研究所より資料1に基づき説明があった。これに対し、
・取りやめた研究テーマはあるのか。
（原研より）先端基礎研究では、9件が終了し、替わって新規課題があ

り、スクラップアンドビルドをやっている。通常の研究課題についても専門部会を設置し、5年毎に研究評価を行いながら、進めている。設備についても、JRR2を廃止するなどスクラップアンドビルドを行っている。

・人員はどれくらい増減しているのか。

(原研より) 実質上、ここ数年は毎年20人程度の減、ここ10年間で170名の減となっている。

・アジア太平洋地域における国際協力は、原研、動燃、エネ庁、大学などが個別単独に取り組んでいるが、協力・協調をすすめるべき。

・予算要求の基本的考え方は何か。一律に増額にしているのではないか。光、荷電粒子、中性子による研究対象と各研究機関の研究目的と分担をどう考えるか。これらは一つの研究所のみで扱うには幅が広すぎるか。燃料サイクルに関しては、動燃など他の組織との役割分担を如何に考えるか。安全研究と今後の原子力開発の関係をどう捉えて行くのか。黎明研究など、独創性を如何に評価するのか。以上の点について検討いただきたい。

・原子力の研究は、研究成果が一般の人に理解されていないのではないか。

(原研より) プレス発表等を積極的に行うよう努めている。また、広報室を部レベルに拡充した。今後さらに努力をしていきたい。

(2) 新たな原子力政策円卓会議の進め方について

・谷垣委員長より、原子力委員会においては、平成8年10月、装いを新たに新円卓会議を開催することを決定したが、その後、動燃改革を巡る議論のため、残念ながら、開催が遅れた。一方、今後、21世紀に向けた原子力開発利用の全体ビジョンの構築を念頭におきつつ、現実の課題に取り組んでいくことが必要。その際、国民の原子力に対する理解と協力を得ていくことが不可欠。このような状況を踏まえ、新たな原子力政策円卓会議を開催し、今後の原子力政策に反映していくことが必要。新たな原子力政策円卓会議については、会議の運営をお願いするモデレーターの役割が重要であり、この点については先週の委員会でも十分議論。単に原子力の賛否の議論に終わることなく、国民の原子力問題についての議論を深める観点から円卓会議を運営し、各界各層の多様な意見を聴取し、原子力委員会の政策審議の場に提言していただける方をモデレーターをお願いすべき。前回の経験を踏まえ、モデレーターの方々に会議の開催、運営を要ねてはいかがかと考える。モデレーターから提出される新円卓会議での意見等については、当委員会でも十分検討・考慮し、その内容を会議の参加者を含め、国民の方々に公表すべき。本日は、新たな原子力政策円卓会議の進め方について、委員会決定の形でまとめたい。

との発言があり、事務局から委員会決定案が説明された。これに対し

て各委員より

- ・白書では「国民とともに考える原子力」との考えを示しているが、原子力について自分自身の問題として捉えることが重要であり、一般の人が原子力について語ることでできる状況を新円卓会議が作り出すことが大切。そのためにはメディアでも大きく取り上げられるような広報の工夫が必要である。また、放射線利用、廃棄物問題も含めた幅広い原子力の課題を議論の対象として欲しい。
- ・原子力を巡る動きとして動燃改革や地球温暖化対策などあるが、間もなく21世紀を迎え、21世紀の原子力の全体ビジョンの構築に資するような議論を期待したい。また、モデレーターに会議の開催、運営を委ねるのであるから、会議の事務局についても第三者的な機関に任せてはどうか。
- ・前回のモデレーター提言に沿って新円卓会議を考えた。モデレーターの人選については、いろいろな考え方があるが、推薦方式は日本では定着していない。モデレーターの役割は、全体を見ながらまとめることであり、原子力委員会の責任で選ぶことが重要であると考え、等の意見があり、各委員から指摘のあった点については、モデレーターの方々に伝えることとし、案のとおり了承された。

(3) 核融合に関する国際協力について

標記の件については、外交交渉に係ることから非公開で審議することとした上で、事務局より席上配布資料に基づき、ITERに関する国際状況、特に米国連邦議会でのITER関連予算の審議状況について説明があった。

(4) 議事録の確認

事務局作成の資料2第39回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回臨時会議を7月17日(金)10:30より開催する方向で調整したい旨発言があった。